

森のレストラン	
<p>幼児から小学校低学年向けの野外活動です。森の広場で拾った木の実や落ち葉、枝などの自然物を拾い集め、拾った物を画用紙の上に並べて「料理」を作って遊びます。遊びながら、秋の自然を感じることができる活動です。</p>	
【ねらい】	<p>木の葉や木の実、木ぎれ、キノコなど様々な色や形をしたものを食材に見立て、料理のように、紙皿（画用紙）に盛り付ける活動を通じて、季節ごとの自然の様子に気付いたり、その特徴を見付けたりすることができる。</p>

主に育成が期待できること（重点的なもの： 関係のあるもの： ）

学習指導要領に示されている資質・能力	“「問い」を発する子ども”の具体的な姿
<p>実際の社会や生活で生きて働く 知識及び技能</p>	<p>問題を発見する姿</p>
<p>未知の状況にも対応できる 思考力、判断力、表現力等</p>	<p>他者と関わろうとする姿</p>
<p>学んだことを人生や社会に生かそうとする 学びに向かう力、人間性等</p>	<p>主体的に問題を解決する姿</p>

【対象学年（年齢）】	幼児（４・５歳児）～小学校１・２年生
【人数・グループ】	１０～３０人程度
【持ち物・用意するもの】	採集したものを入れる容器 帽子 タオル 飲み物 デジカメ（利用団体で１つ）

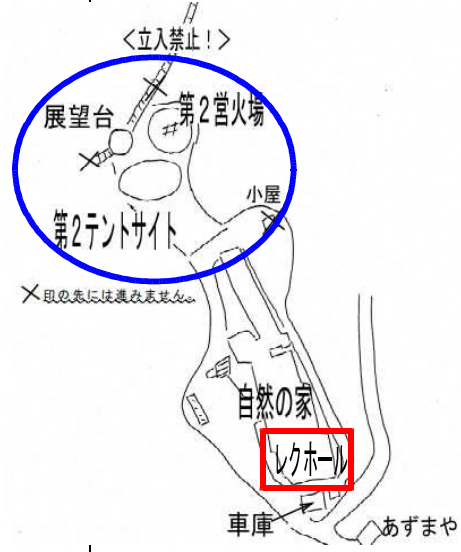
こんな学年・学級におすすめです！	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・長根山での自然体験を、生活科の学習に生かしたいという学年・学級におすすめです！</li> <li>・長根山の自然に触れさせながら、体験活動に取り組みたいという方（幼保施設等）におすすめです！</li> </ul>	

【展開例】

事前学習・準備 (必要に応じて)	・採集したものを入れる容器を準備する。 例) ペットボトルやティッシュケースを活用した箱
---------------------	---



時間	活動内容	留意点
5	1 活動のめあてを確認する。 あきのしぜんをたくさんみつけて、このはやきのみがいっぱいのもつくりをつくろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用前に「秋の自然をたくさん見つけよう」等、子どもたちと目標を共有しておく、より主体的に活動できるようになります。</li> </ul>
10	2 活動の見通しをもつ。 ・活動内容や活動の流れ、活動場所を確かめる。 【活動内容や活動の流れ】 木の葉や木の実等、材料を採集する 採集したものを、紙皿(画用紙)に盛り付ける。 【活動場所】 材料採集 第2テントサイト、第2営火場の周辺(青いの中) 制作活動 レクホール(赤い所)  ・活動時に注意することの説明を聞く。 【活動時の注意】 落ちている木の葉や木の実だけ拾う。 虫やへび等、生き物を触らない。	
30	3 木の葉や木の実等を採集する。 ・第2テントサイトや第2営火場の周辺で、木の葉や木の実等を採集する。	



・採集が終わったら、レクホールに移動する。

- ・いろいろな種類の木の葉や木の実を採集させると、創作活動の際に、作品の幅が広がります。
- 【安全管理】
- ・活動場所には滑りやすくなっている所があるので、歩いて探すよう声を掛けてください。
- ・立入禁止エリアに入ったり、手摺りを越えたりといった危険な行為がないように見届けをお願いします。
- ・転んでしまった、虫に刺された等、怪我人や体調不良者が発生した場合は、すぐに自然の家職員へ知らせてください。

- 3 0 4 採集したものを、紙皿（画用紙）に盛り付ける。
- ・画用紙をもらい、盛り付けを始める。
  - ・盛り付けが終わったら料理名や自分の名前を書いて、作品を完成させる。
  - ・完成した作品を、写真に撮ってもらう。

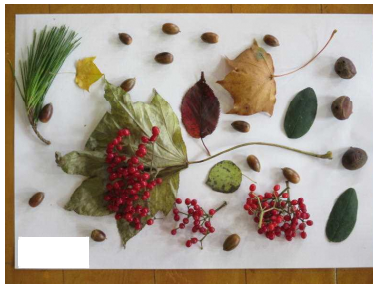
活動の中でこのような場面があります！

採集した木の葉や木の実を、どのように盛り付けるか考える。

置き方を工夫したり材料を付け足したりと、試行錯誤する。



- 2 0 5 活動のまとめをする。
- ・互いの作品を鑑賞する。
  - ・自然の様子について気付いたことを発表する。



- 5 6 片付けをする。
- ・採集したものは、持ってきた容器に入れて持ち帰る。
  - ・画用紙も持ち帰る。

【指導のポイント】

- ・出来上がった料理（作品）に正解はありません。そのため、子どもの自由な発想を引き出すことが大切です。
- ・作品が出来上がった子どもには、付け足したり変えたりするところはないか問いかけてあげると、思考がさらに深まります。
- ・その際に、友達作品や活動の様子を参考にしてみるようにさせると、新しい気付きが生まれ、思考が広がる場合があります。
- ・利用者が児童の場合、友達作品に対する感想を付箋紙に書いて渡しながら伝えることで、達成感につながります。
- ・利用者が幼児の場合、「お気に入りの料理をたくさん見つけよう」等の視点を与えることで、積極的に友達作品を鑑賞しようとするのが期待されます。
- ・自然の様子について気付いたことを発表する際は、全体の場で気付いたことを共有することで学びが深まります。
- ・お子さんの荷物の忘れ物がないように、最後の見届けをお願いします。

事後学習の例

- ・小学校低学年の場合は、生活科の様々な内容の学習に発展させることができます。

実生活（学校や家庭等）でこのように活用することも可能です！

- ・図工「造形遊び」の学習（幼保の場合は、園での造形遊び）に活用することも可能です！